

## 薬剤科 DI ニュース

## 抗生物質を生食又は 5%ブドウ糖液に溶解後の安定性について

院内感染を考慮すると、溶解後は速やかに使用することが望ましい。

しかし、早く溶解してしまったとか、溶解後したがすぐには投与出来ないなどの場合がある。そこで、抗生物質の各薬剤がどのくらい安定性を保つことができるのかを調べ、表にしました。

系	薬剤名	溶解液	溶解後の安定性・備考
ペニシリン系	タゾシン静注用 2.5g	生食、5%TZ	室温で 24 時間以内、冷所で 72 時間以内に使用
	注射用ビクシリン 250mg	生食、5%TZ	室温(25℃)で、生食の場合:6 時間以内に使用 5%ブドウ糖液の場合:1 時間以内に使用
	ペントシリン注射用 1g, 2g	生食、5%TZ	室温で 24 時間以内に使用
	ユナシン S 静注用 1.5g	生食	室温で 6 時間以内、冷所で 24 時間以内に使用
セフェム系	クラフォラン注射用 0.5g	生食、5%TZ	室温(25℃)で 8 時間以内に使用
	ケイテン静注用 1g	生食、5%TZ	室温(25℃)で 6 時間以内、冷所で 72 時間以内に使用
	スルペラゾン静注用 1g	生食、5%TZ	室温で 6 時間以内、冷所で 48 時間以内に使用
	セファメジン α注射用 1g	生食	遮光保存し、室温で 48 時間以内に使用
	セフメタゾン静注用 1g	生食、5%TZ	室温で 24 時間以内に使用
	パンスポリン静注用 0.5g, 1g	生食、5%TZ	室温(25℃)で溶解後 8 時間以内に使用
	フルマリン静注用 0.5g, 1g	生食、5%TZ	室温(25℃)で 6 時間以内、冷所で 24 時間以内に使用
	注射用マキシピーム 1g	生食、5%TZ	遮光保存し、室温で 24 時間以内に使用
	モダシン静注用 1g	生食	室温で 6 時間以内、冷所で 48 時間以内に使用
	ロセフィン静注用 0.5g	生食、5%TZ	室温(22~27℃)で 24 時間以内、冷所で 48 時間以内に使用
カルバペネム系	カルベニン点滴用 0.5g	生食、5%TZ	室温(25℃)で 6 時間以内に使用
	チエナム点滴用 0.5g	生食、5%TZ	室温で 4 時間以内に使用
	メロペン点滴用 0.5g	生食、5%TZ	室温(25℃)で、生食の場合:24 時間以内に使用 5%ブドウ糖液の場合:3 時間以内に使用
アミノグリコシド系	硫酸アミカシン注射液「萬有」 100mg, 200mg	生食、5%TZ	室温で 24 時間以内に使用
	エクサシン注射液 200mg	生食、5%TZ	室温で 24 時間以内に使用
	パニマシン注射液 100mg	生食	室温(25℃)で 48 時間以内に使用
	ハベカシン注射液 100mg	生食	室温で 24 時間以内に使用
テトラサイクリン系	点滴静注用ミノマシ 100mg	生食、5%TZ	室温で 4 時間以内に使用し終える
リンコマシン系	ダラシン S 注射液 600mg	生食、5%TZ	室温で 24 時間以内に使用
ホスホマシ系	静注用ホスシ 2g	生食、5%TZ	室温で 24 時間以内に使用
グリコペプチド系	塩酸バンコマイシン点滴静注 用 0.5g	生食、5%TZ	室温(25℃)・冷所いずれも 24 時間以内に使用

TZ;ブドウ糖液、室温;1~30℃、冷所;15℃以下

(薬剤科 吉村)